

市街地整備促進特別委員会資料

案件 J R 高槻駅北東地区市街地整備について

平成 20 年 2 月 26 日

【 市長公室 】

ＪＲ高槻駅北東地区「関西大学高槻新キャンパス」について

平成２０年 ２月

高槻市関西大学支援策検討専門部会

目 次

その1 まちづくりの考え方について

1．全国及び大阪府の人口推計	1
1 - 1．全国の推計	1
1 - 2．大阪府の推計	2
2．高槻市の人口構成の現状と将来	3
3．人口動態の概観	5
3 - 1．全国の人口動態	5
3 - 2．高槻市の人口動態	5
4．豊かな高槻力を目指して	6
5．JR高槻駅前におけるまちづくり	6
6．交流人口	7
7．関西大学立地の意義	7

その2 支援の枠組について

1．これまでの経過	9
2．支援の枠組	10
3．基本合意書（素案）について	11
別添1（関西大学進出にかかる経済効果）	12
別添2（関西大学高槻新キャンパスにかかる地域貢献）	13
参考資料1（関西大学新キャンパス構想を発表（関西大学HPより））	14
参考資料2（関西大学からの要望書）	15
参考資料3（関西大学新キャンパス構想（調整状況））	16

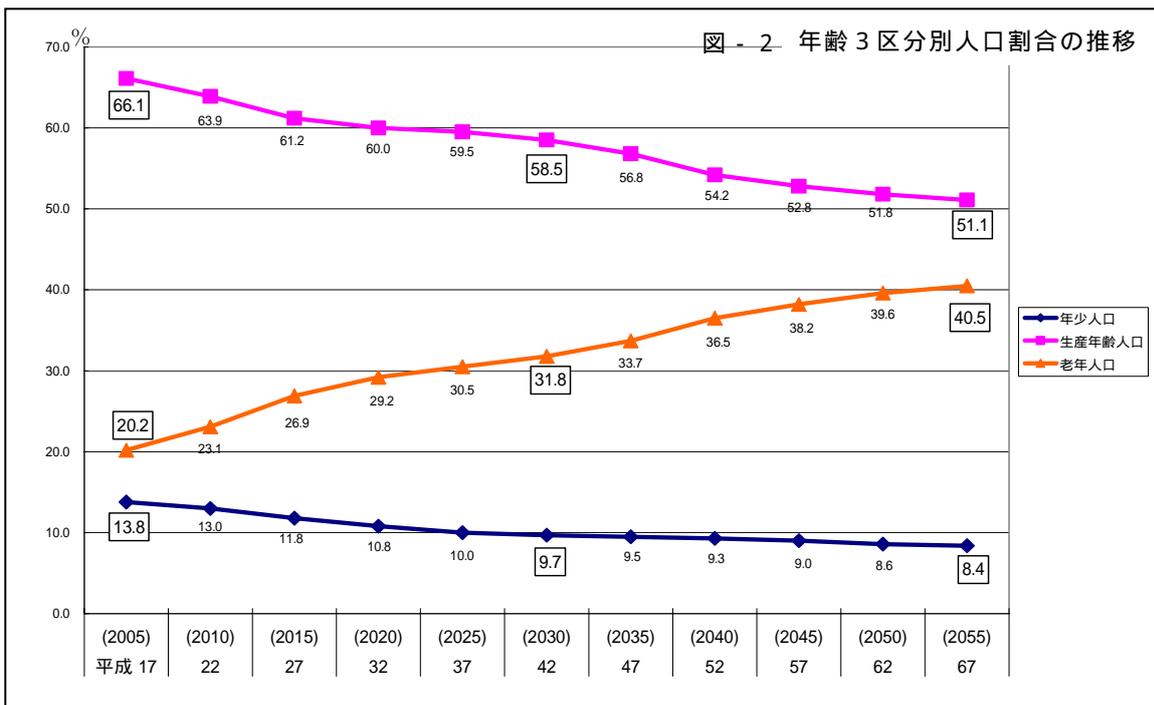
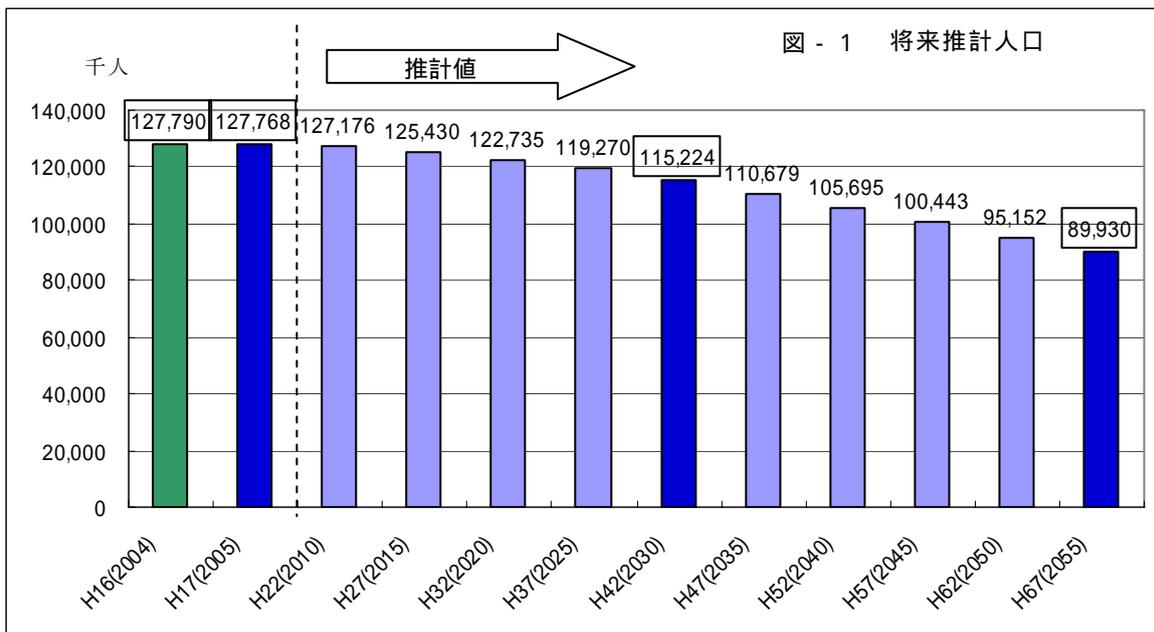
その1 まちづくりの考え方について

1. 全国及び大阪府の人口推計

1-1. 全国の推計

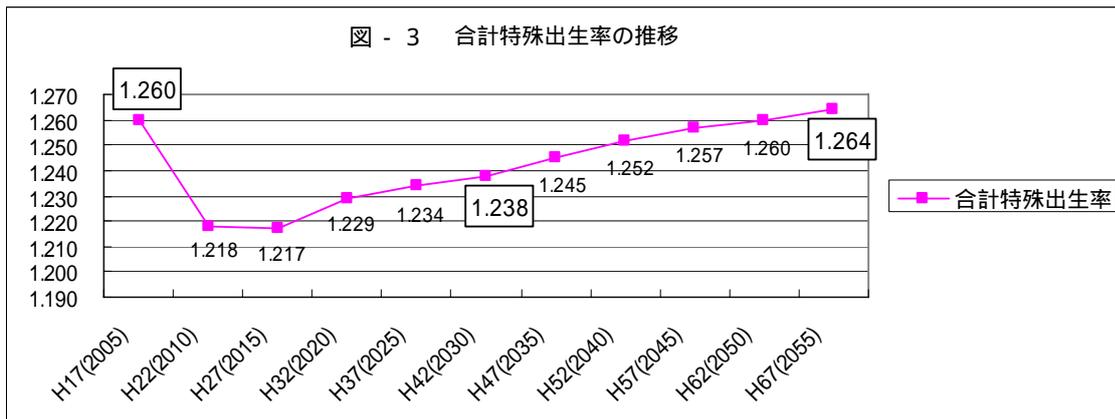
我が国は、現在これまでで初めての人口動態の転換期であり、今後、急速に人口減少と高齢化が進展するといわれている。

図-1は、国立社会保障・人口問題研究所による日本の将来推計人口（平成18年12月推計）であるが、総人口は、**2004年（1億2,779万人）**をピークに減少に転じ、約**25年先の2030年には1億1,522万人**、**2055年には8千993万人**になると予測されている。



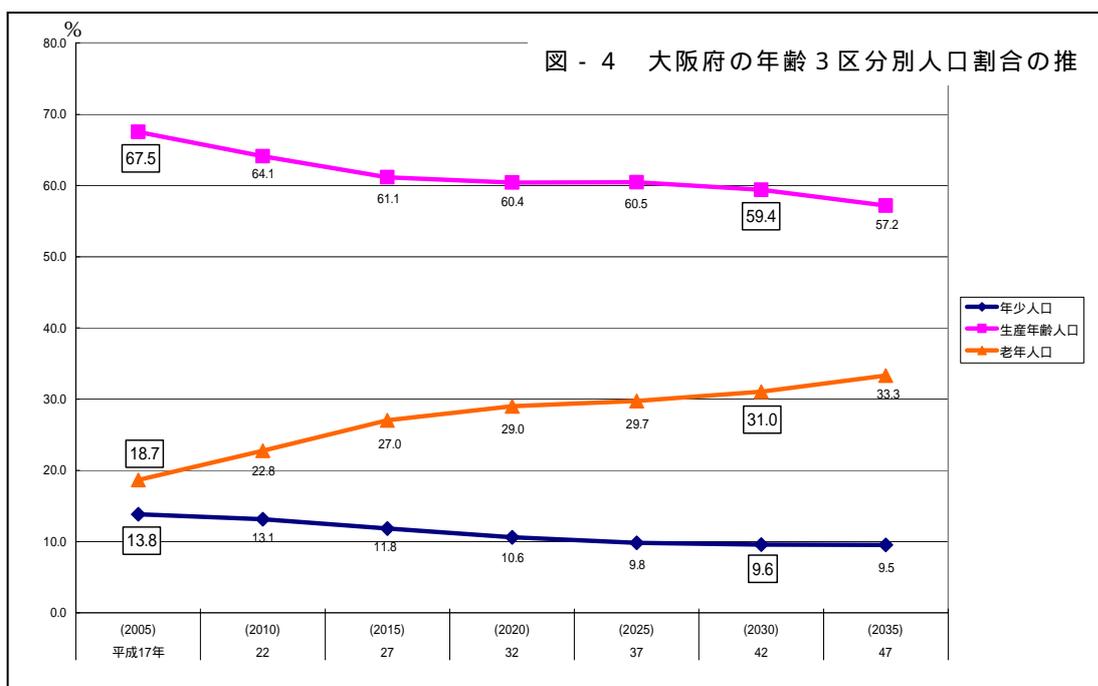
年齢3区分別人口割合の推移（図－2）は、高齢化率が2005年の20.2%から2030年には31.8%へ、同様に生産年齢人口割合が66.1%から58.5%へ、年少人口割合は13.8%から9.7%へと推移していくこととなり、約50年先の2055年には、それぞれ40.5%、51.1%、8.4%へと推移していくことが分かる。これらから、人口減少とともに少子高齢が今後も続く見通しとなっている。

また、合計特殊出生率（図－3）では、2005年には1.260であったものが、2030年には1.238、2050年には1.264と推計しているが、出産年齢層の人口が減少する中、率は上がるものの、出生数は減少する（人口問題研究所将来推計人口による）。



1 - 2 . 大阪府の推計

大阪府の年齢3区分別人口割合の推移（図－4）は、高齢化率が2005年の18.7%から2030年には31.0%へ、同様に生産年齢人口割合が67.5%から59.4%へ、年少人口割合は13.8%から9.6%へと推移していくこととなり、少子高齢社会への進行は全国と同じ傾向であることがわかる。なお、合計特殊出生率は1.27から1.19へ推移する。（人口問題研究所都道府県別将来推計人口による）



国立社会保障・人口問題研究所（平成19年5月推計）「日本の都道府県別将来推計人口」によ

2. 高槻市の人口構成の現状と将来

高槻市と全国の人口ピラミッドを比較してみると、ほぼ近似した形態となっている（図-5）。

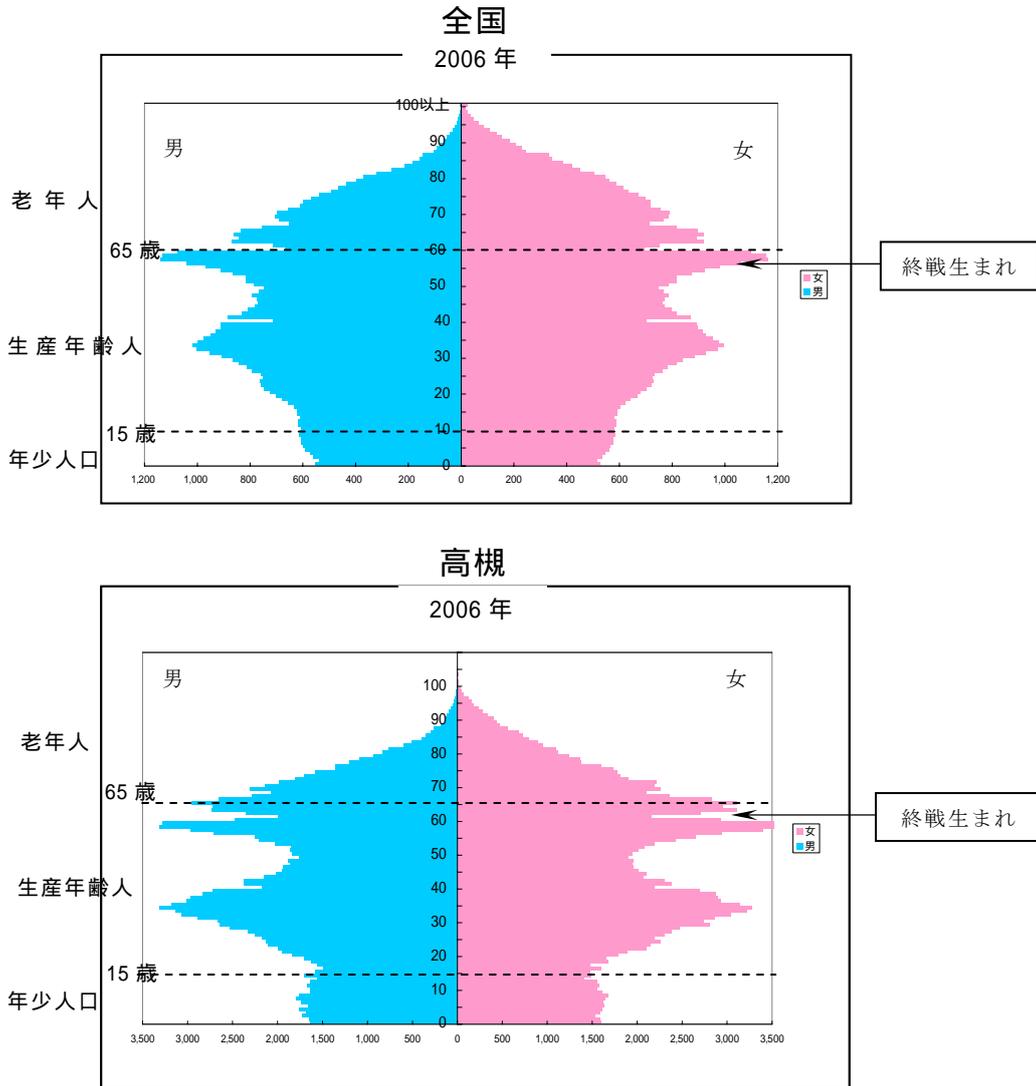


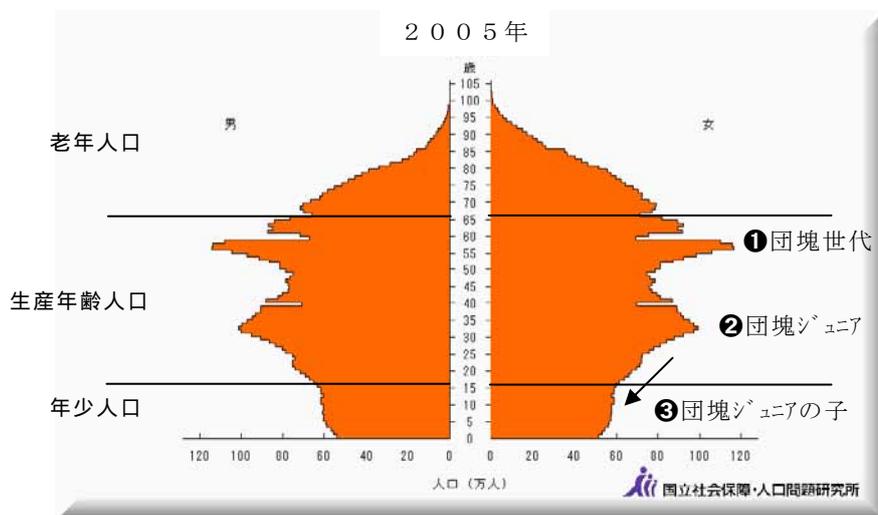
図 - 5 高槻市と全国の比較

高槻市も全国と同様であるが、2つの膨らみが見られる。55歳を越えた膨らみの部分は、いわゆる団塊の世代である。そして30歳前後は、団塊の世代の子供たち、いわゆる団塊ジュニアの世代である。この形は、基本的には「つぼ型」で、この2つの膨らみがあるため、その変形といえる。（※1）

逆に人口が少なくなっている部分は、終戦生まれの方であり、凹んでいることが分かる。一方、高槻市と全国の違いが少しあるとすれば、45歳前後の人口が少なくなっていることが分かる。しかし全体の人口構成としては、全国と類似している。

※1：人口ピラミッドには、一般的に5種類（ピラミッド型、つりがね型、つぼ型、星型、ひょうたん型）に分類され、現在は、「つぼ型の変形」と考えられる。

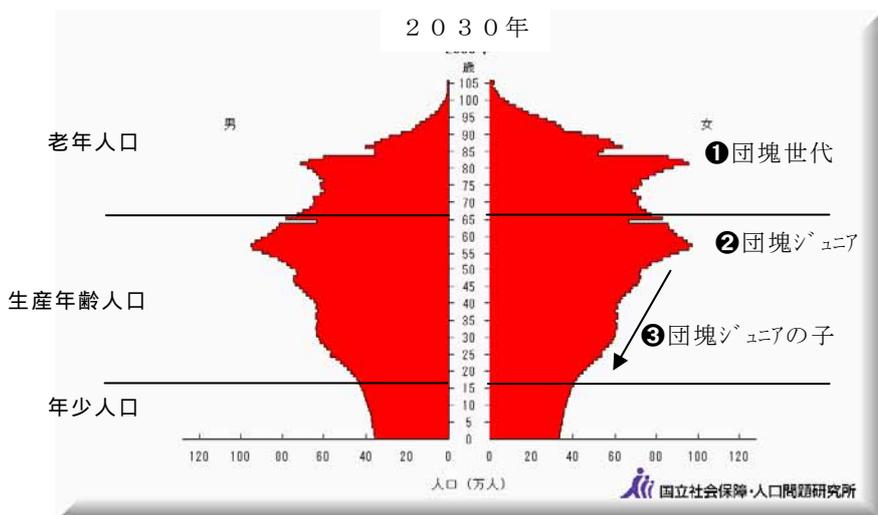
高槻市も現状が全国と類似しているので、50年後へは、よく似た人口構成になると推測される（図-6）。



2005年

- ・①・②の団塊世代及び団塊ジュニアの世代が大きく膨らんでいる。
- ・団塊ジュニアの世代から下の若い世代は減っており、少し膨らんでいるのが③団塊ジュニアの子と思われる。

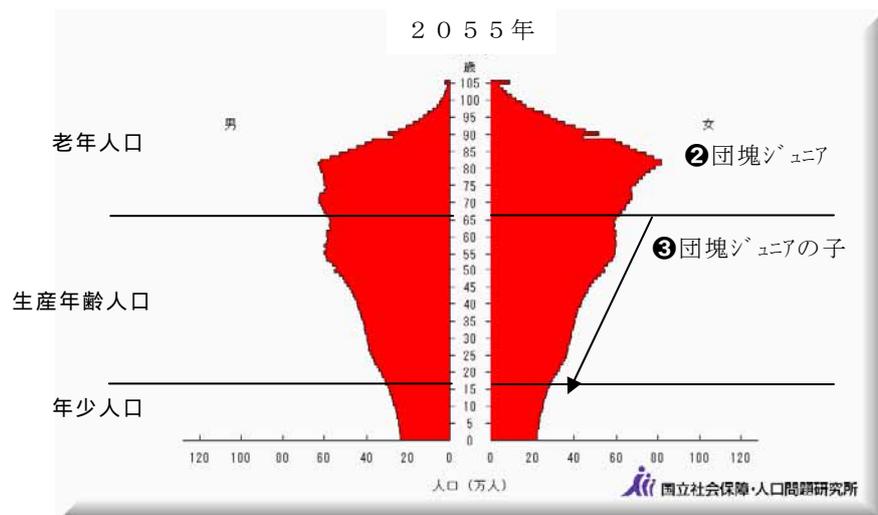
総人口：1億2,777万人



2030年

- ・①の団塊世代は後期高齢者となり、②の団塊ジュニア世代は、前期高齢者へと向かっていく。
- ・出生数の減少により、自然増加はマイナスとなり、人口は減少する。

総人口：1億1,522万人



2055年

- ・50年後には、①団塊の世代は亡くなり、②団塊ジュニアは、すでに後期高齢者となっている。③団塊ジュニアの子が前期高齢者へと近づく。
- ・老年人口と年少人口比は、およそ5:1となる。

総人口：8千993万人

図-6 人口ピラミッドの推移